

調査報告

男女共同参画社会に関する調査結果

今年3月に「男女共同参画社会に関する安曇野市民意識調査」を実施しました。その調査結果の一部を紹介いたします。

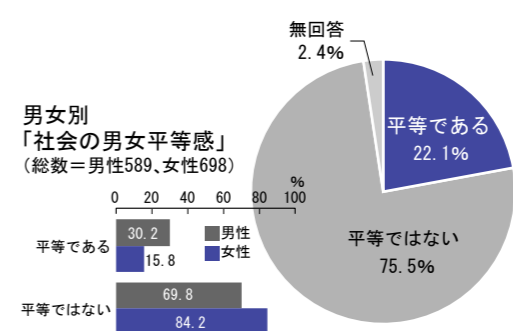
市では、今年度中に「安曇野市男女共同参画計画」を策定する予定です。この計画は、男女が互いに認め合い、支え合いながら家庭・職場・地域で生き生きと暮らすことができる男女共同参画社会の実現を目指し、作られるものです。

計画策定にあたって、市民の皆さんの考え方を把握するため今年3月に「男女共同参画社会に関する市民意識調査」を実施しました。

現在、世の中は男女平等な社会だと思えますか？

男女の平等感については、「平等である」と感じている人は2%と少なく、4人に3人は「平等でない」という意識を持っています。(図1)

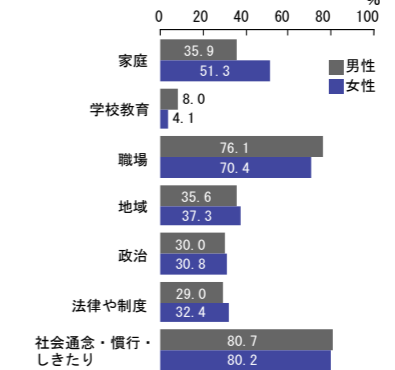
男女の平等感(図1)



平等でないと思う分野は？

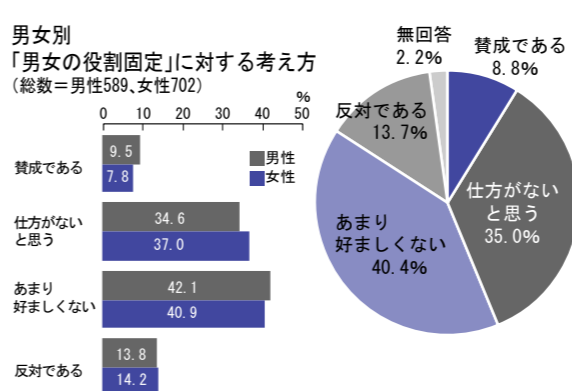
「平等でない」とする分野には、「社会通念・慣習・しきたり」「職場」が圧倒的に多く、日常生活では、「職場」の改革が急務であることが分かります。女性の社会進出は進んだものの、「社会通念・慣習・しきたり」

男女別「平等ではない」と感じる分野(図2)【複数回答】(総数=男性410、女性587)



「あまり好ましくない」が40%で最も多くなっていますが、「仕方がない」という、あいまいだが肯定的な意識の人も35%と少なくありません。明確に反対する人も14%とそれほど多くなく、「頭では分かっているが、

男女の役割固定に対して(図3)

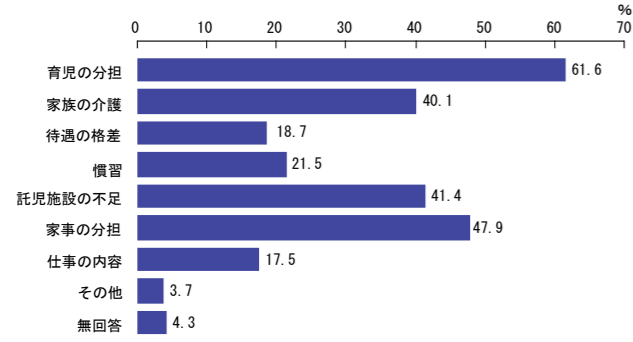


心の中では釈然としないものが残っている」という状況を表しています。(図3)

女性が働く上で障害となっていることは？

女性が働く上での障害は「育児の負担」が最も多く、「家事の負担」「託児施設の不足」「家族の介護」などが続いて多くなっています。いずれも家庭内での家事・育児・介護の負担の問題であり、核家族化が進んだ結果、家族の持つ「家事・育児・介護」といったいわゆる福祉機能が減退したことにより、女性(母親)に大きな負担がかかる結果となったことが分かります。(図4)

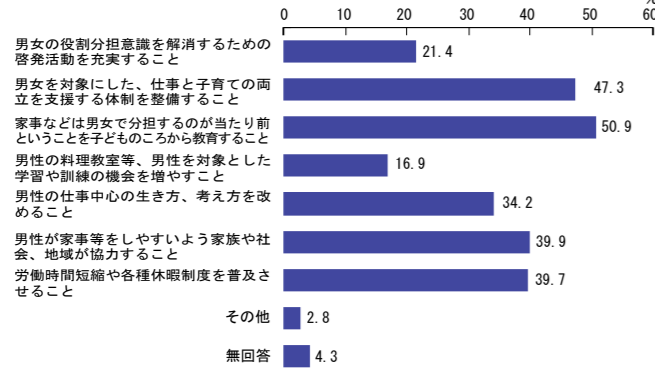
女性が働く上での障害【複数回答】(図4)



男性の家事・育児・介護へのかわり方を進めるため必要なことは？

男性の家事・育児・介護へのかわり方が、まだ少ないといわれています。これらのかわりを進めていくために必要なこととしては、「家事などは男女で分担するのが、当たり前ということ子どもから教育すること」が最も多く、分担すること意識の啓発と、分担するためのゆとりの確保が重要であると考える人が多いという結果になりました。(図5)

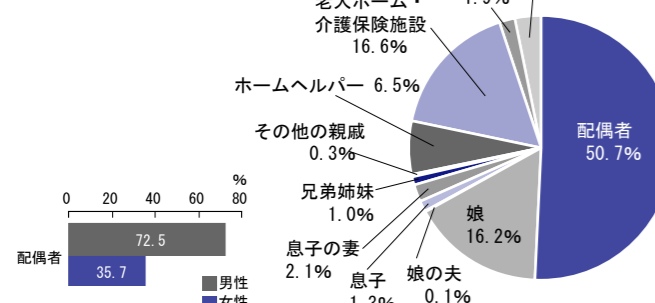
男性の家事・育児・介護へのかわりを進めていくために【複数回答】(図5)



自分が介護されるとしたら、誰に見てもらいたいですか？

自分に介護が必要になったら、「配偶者」に介護してもらいたいという人が半数程度占めています。これは、配偶者が「最も自分のことを理解し、心配してくれている」という期待・安心感が大きいことが要因として考えられますが、核家族化を背景として、「配偶者以外に迷惑をかけたくない」「配偶者以外に介護を頼める人がいない」といった意識や現実も要因として考

誰に介護してもらいたいか(図6)

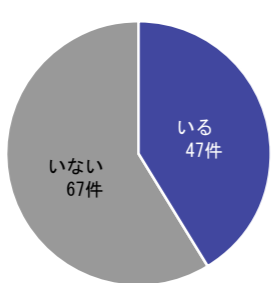


事業者への調査

平等でないと思う分野は？

男女別に従業員の状況を見ると、パート社員に女性が多い状況で、雇用の安定の面で男女格差が存在しています。女性の管理・監督職は4割以上の事業所に配属が進んでいます。(図7)

女性管理・監督職(図7)



今回の紹介した調査報告書の全文は、各総合支所地域支援課、または市ホームページでご覧いただけます。
■お問い合わせ
総務部人権尊重課
(TEL 71・2000)

調査概要

- ①調査対象 無作為抽出による18歳以上の市民 3,000人、事業所200社
- ②調査方法 郵送による調査票配布・回収
- ③調査期間 平成19年3月6日～30日
- ④回収(率) 市民 1,335人(44.5%)
事業所 114社(57%)
- ⑤性別 男性 601人(45%)
女性 716人(54%)
無回答 18人(1.3%)
- ⑥主な回答者年齢 30代～40代 351人(26%)
50代～70代 744人(56%)